

## 【展覧会のみどころ】

「建築と社会を結ぶ—大高正人の方法」では、国立近現代建築資料館で行ってきた大高正人資料の調査を基に、図面・スケッチ・写真・書簡等の資料を通して、大高正人の建築活動の全体像を紹介します。

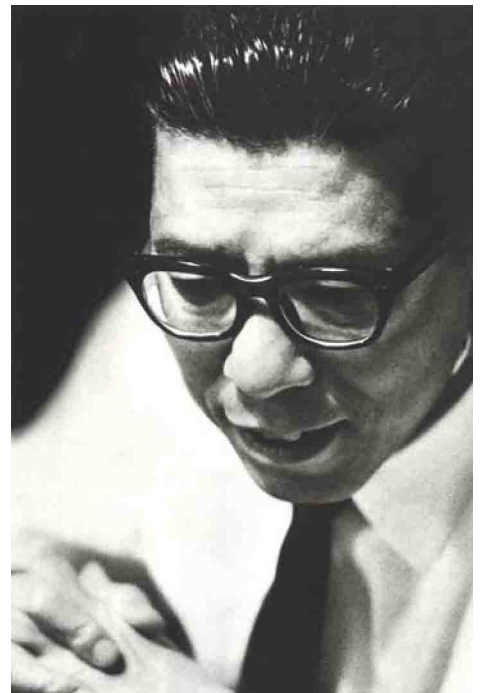
大高は、目標とする建築のテーマとして「PAU」、すなわち Prefabrication, Art & Architecture, Urbanism の統合を掲げ、建築部材の開発から都市計画に至るまで、幅広い仕事に取り組みました。本展では、大高が目指した「PAU」とは何か、を考えながら、大高が「PAU」に取り組んだ仕事の軌跡を、年代順に追いながら展示します。学生時代から前川國男建築設計事務所を経て独立する頃までの知られざるスケッチ群や、建設過程を記録した写真などには、初公開の資料が多く含まれます。また、あまり知られることのなかった後期の都市計画への取組も、図面や報告書等を通して紹介します。今回は建築資料館初の試みとして、本展のために撮り下ろした大高の出身地である福島県三春町作品映像と、協力大学の学生の制作による模型を展示します。

大高が取り組んだ普遍的なテーマは、現代においても大きな問いを私たちに投げかけています。

## 【建築家紹介】

大高正人（おおたかまさと／OTAKA Masato）

1923年福島県三春町生まれ。47年東京大学第二工学部建築学科卒業。49年前川國男建築設計事務所入所。60年世界デザイン会議にメタボリズムグループの一員として参加。62年大高建築設計事務所設立。建築のみならず都市計画の分野でも建築界を牽引した。2010年、87歳で逝去。



### ＜主な作品＞

1962	片岡農業協同組合
1965	花泉農協会館
1967	千葉県文化会館
1965－86	坂出市人工土地
1968	千葉県立中央図書館
1969	栃木県庁舎議会棟
1968－78	広島市基町団地
1977－2000	多摩センター駅前広場・ペデストリアンデッキ
1979－2002	みなとみらい21
1982	三春町歴史民俗資料館・自由民権記念館
2003	三春交流館・まほらホール

※建築作品は竣工年、複数期に渡る作品と都市計画は計画開始年から完成年を記載